

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473201224
法人名	有限会社 ミムラ
事業所名	愛の郷グループホーム
訪問調査日	平成20年2月15日
評価確定日	平成20年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473201224
法人名	有限会社 ミムラ
事業所名	愛の郷グループホーム
所在地	241-0011 横浜市旭区川島町1599-13 (電話) 045-370-3705

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	平成20年3月28日

## 【情報提供票より】(平成20年1月15日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	13 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 15.1 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨ラーメン構造造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,800 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 250,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1000 円			

### (4)利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 81.8 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	横浜鶴ヶ峰病院、新緑会脳神経外科、大久保クリニック
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは相鉄線鶴ヶ峰駅からバスで2つ目、歩いて12～3分位の比較的新しい住宅地にある。近隣にはくぬぎ台団地や県営鶴ヶ峰団地等の団地群、1戸建て新築住宅、農業を中心とした古くからの地元の方々混在する地域で郊外住宅地である。このホームはお母さんを介護されたオーナーがお母さんのことも考えて設立された。オーナーは地元の人であり、地元団体等と古くからお付き合いがあり、開設時からスムーズに地域に溶け込んでいる。自治会にも参加し、行事等にも参加し、非常に良い関係にある。近隣の人達と関連も非常に良い。このホームははかかなりイベントを行っている。イベントにはご家族や近所の方々にご案内をしてお招きし、一緒に行事を楽しむ。芋煮会ではホームの畑で出来た野菜類を中心に利用者さんも一緒に食べて楽しむ。ゴミの集積場所を提供し近所の方に利用してもらっている。こういった地道な活動は地元出身のオーナーの地の利と相俟って強い連携につながっている。運営推進会議により民生委員等の協力が得られ、地域包括支援センターも近くにあり地域との密着も面に広がったと云える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は特に無かったが、この1年間はセンター方式の採用とアセスメントの充実に取り組んだ。センター方式により利用者個人別に生活暦、嗜好や好みなどをより詳しく把握することと、職員のレベルアップを狙った取り組みである。但し、センター方式全部を一気に実施するのではなく、必要に応じて、必要なシートを順次採用して行く予定である。朝の引継ぎ時に細かい指導を積み重ね、ここの介護計画の定着と職員のレベルアップを目指している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義や目的を理解し、ホームでの暮らしがより良いものにレベルアップするよう職員には自己評価票を記入、提出してもらい自己評価を作成した。作り上げた資料を配布し、更に外部評価を受けるに際し、その目的や狙いを文書で配布し周知徹底を図った。プロセスでの気付きや指摘事項は改善に取り組む予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は平成19年7月に第1回目を開催して以来、2ヶ月に1回づつ計4回の実施が出来ている。旭区としてグループホーム連絡会で説明があった後、区から自治会長へ協力要請があり、このホームは自治会長の推薦により、地域代表として自治会会計監査の方が指名をされ、これに民生委員、家族代表、ホーム関係者にオブザーバーとして地域包括支援センターの所長を加えて実施している。この運営推進会議を通じて、民生委員経由でボランティアの紹介があるなど大きな効果が期待出来る状況にある。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は良く訪問してくれており、関係は良く、連携も充分取れている。利用者さんの生活状況や健康状況については来訪時に出来るだけ詳しくお伝えするとともに、「ホームの便り」を毎月トピックスに写真を添えてお送りし状況をお知らせするようにしている。特に健康上の問題点が発生した場合には電話でお知らせするようにしている。年間には沢山の行事が予定されているが、行事にはご家族も参加し一緒に楽しんでいる。家族の参加はあるが、定期的な家族会開催ではないので定期開催を検討して行きたい。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携では①保育園の子どもが定期的に訪問してくれている。②障害者の方がやっているミコミ喫茶のバザーに参加している。③芋煮会などのホームの行事に地域の方をお招きし一緒に楽しんでいる。④ボランティアの関係では絵芝居の方、ハーモニカの方など来てくれている。⑤町内会の関係では町内会に加入し、盆おどり、運動会、防災訓練、ドンド焼きなどの行事に積極的に参加し交流を深めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は地元の人である当ホームの開設者が自ら親を介護してきた経験や思いを込めて作り上げた物で、ご利用者やご家族だけに留まらず地域や職員同士の関係にも当てはまると考え、職場全体にこの思いを浸透させ理念に基づく生活環境を作るため実践し展開して行きたいと考えている。	○	理念の実現に向けて取り組みを継続する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業運営の基本的共通認識として事務所や厨房等見やすい場所に掲示して、職員が常に意識して業務に携わっている。またユニット会議や朝の引継ぎミーティング等でも理念について確認しあい日々の実践に心がけている。		今後も継続して取り組んでいく。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏の盆踊りへの参加や運動会見学、防災訓練、ドンド焼きなど地域の行事に積極的に参加して交流を進めている。又近所の保育園との交流も定期的実施し相互に良い関係作りを進めている。		今後も地域活動に積極的に参加し交流を進めて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を理解し、ホームでの暮らしがより良い物に作り上げるべく資料を配り周知している。外部評価を受けるに際し、この目的や狙いを文書で配布し、また職員にも評価して提出してもらった。	○	結果を職員に提示し改善項目や取り組むべき項目を全員で認識して実行して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成19年7月に第1回目を開催して以来、2ヶ月に1回づつ計4回の実施が出来ている。の運営推進会議を通じて、民生委員経由でボランティアの紹介があるなど大きな効果が期待出来る状況にある。		今後も継続して取り組んでいく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所のサービス課へご利用者とともに訪問し、話し合う機会を持ち情報交換する機会にしている。市担当とは事業運営上の質問をファックスで確認するなど接触の機会を作るようにしている。		今後も継続して取り組んでいく。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的にお便りをご家族宛に郵送して暮らしぶりをお伝えしている。又健康状態については訪問時に生活の様子をお伝えし、特に健康上の問題発生時は電話で報告するようにしている。お小遣い関係は、訪問された際に使用状況を管理ノートで説明し必要とされる領収書もお渡ししている。行事への家族の参加はあるが、定期的な家族会開催ではないので定期開催を検討して行きたい。		今後も継続して取り組んでいく。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置し、意見や不満、苦情を聞く機会にしている。	○	家族会は定期的に開催してない為、早急に家族会のルールを作り定期的に開始をして運営等に関する意見を反映できるようにして行きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の離職により2回やむなく移動の事態が発生したが、人員基準は遵守している。職員の意見や希望を聞く機会として職員が全員参加対象の会議も開催し、定着率低下予防を図っている。		今後も継続して取り組んでいく。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部のホームヘルパー養成学校の先生を直に依頼し、勤務中の介護技術指導や研修を積極的に実施しレベルアップを図っている。	○	職員の技能や知識、経験に応じた内容の研修を実施すべく、計画段階から内容を十分検討し研修を更に推進し職員の向上心に繋げて行きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はグループホーム交換研修に3名の職員が参加し学びと気づきから、自施設への運営の改善に繋がっている。またグループホーム連絡会等に積極的に参加したり他事業所の見学などで相互に情報交換をして交流を進めている。		今後も継続して取り組んでいく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当り、本人の望みやホームでの生活スタイルなどを確認し、不安な点を解消して入居してもらうことを前提に、状況により自宅の外泊やご家族との外出、或いは職員と趣味を通じた過ごし方をしてもらうように工夫をしている。食事やレクリエーションなどのお席もその人の性格や趣味を出きりだけ配慮して皆で楽しめる雰囲気作りに配慮している。友人知人の訪問や面会も自由に受け入れている。		今後も継続して取り組んでいく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の流れの中で、ご利用者の趣味の囲碁、歌やダンスを歌ったり踊ったり教わったり、昔話を聞いて職員も学ぶ事が多い。レクリエーションを楽しんだり、公園への散歩、近くの障害者喫茶店でのコーヒーを楽しむ等工夫をしている。また、居室の掃除や庭の草取り、食事の配膳など一緒に生活をする環境作りに努めている。	○	より信頼関係を築き安心した暮らしをして貰えるように工夫改善して行きたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	穏かな生活をしてもらう為カンファレンスなどで問題点や適切な支援方法を見出し対策を取っている。本人の意向に沿って買物外出や食事などを実施している。		今後も継続して取り組んでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ユニット会議の中でカンファレンスを実施して適切な支援計画を作成する努力をしている。作成に際し、訪問された時にご利用者の生活への希望や支援の有り方など聞き反映するようにし、作成後もご家族に内容を説明し意見要望を聞くようにしている。		今後も継続して取り組んでいく。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	適時カンファレンスを実施し、適切な介護計画づくりに心がけている。	○	もっと家族と話し合い、その結果をケアプランに反映して行きたい。そしてケアプランの実行に家族も参加する内容にして行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族のご希望に合わせて、外出や外泊など自由に実施して貰っている。		今後も継続して取り組んでいく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の鶴ヶ峰病院とは協力提携病院として入居者の病気診断や健康診断で連携している。又、二回/週の往診医との契約で休日・夜間を問わず異常時の先生の指示を仰ぎ適切な対応をしている。		今後も継続して取り組んでいく。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では当ホームでターミナルケアの設備的援助的能力がなく、重度化して自立的な生活が望めなくなってきた場合は、ご家族や往診医とも相談しあい、今後の方針を共有化して一緒に進めている。	○	施設として重度化後の対応は何処まで可能か検討して行きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者を心から敬う言葉使いを指導している。又記録書類については事務所のロッカーに保管して外部から見ることが出来ないようにしている。		継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中にも、個別援助を基本にご利用者の状況に応じた生活をして貰えるように配慮している。食事の時間や睡眠、夜間の入眠時間など。		継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備にモヤシのヒゲを取って貰ったり、大根おろしを手伝って貰うなど、また配膳や片付けなども出来る方には一緒に実施してもらおう工夫をしている。		継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に二回/週の入浴を決め、ご利用者の健康状況や希望に応じて入浴を楽しんでもらっている。また、入浴時以外も可能な時はご利用者の希望があれば入浴して頂いています。		継続して実施して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木の手入れや趣味の編み物、新聞受けからの取り出しなどできるだけ役割を考え行動してもらおう工夫をしている。	○	趣味の囲碁やダンスなどボランティアの協力を求め、一緒に過ごしていただける様な活動を進めて行きたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出きるだけ近くの公園散歩や買物に行き施設外の空気を感じて貰うようにしている。また、施設のベランダや庭に出て戸外で気分転換をしても貰う工夫もしている。	○	今後も外出希望などご本人が望む事を叶えられるように支援をして行きたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設内は基本的にフリーの考えであり、施錠管理はしないようにしている。現在は外の門扉の施錠や勝手口の施錠を実施している。但し夜間は安全管理上玄関の施錠は実施している。二階の行動障害者対策として、玄関に鈴を取りつけ異常を早期察知できる工夫もしている。	○	継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ご近所への日頃の挨拶や回覧板を回すとき等適時話す機会を持ち有事の際の協力を呼びかけ依頼している。		継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材納品を依頼している会社から配布され、お年寄りのカロリーバランスを考えた献立にして貰っている。		継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節感が感じられるような飾りや絵を職員手作りの作品を飾っている。又、ご利用者と一緒に絵や装飾を作って皆で楽しむ工夫をしている。		継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は出きるだけご利用者のなじみの家具などを持って来てもらっている。また、刃物などの危険物は置かないようにしている。	○	ご自分の部屋が落ち着く環境作りを進めて行きたい。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	愛の郷グループホーム
所在地 (県・市町村名)	241-0011 横浜市旭区川島町1599-13
記入者名 (管理者)	桑嶋 章
記入日	平成20年1月23日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は当ホームの開設者が自ら親を介護してきた経験や思いを込めて作り上げた物で、ご利用者やご家族だけに留まらず職員同士の関係にも当てはまると考え、職場全体にこの思いを浸透させ理念に基づく生活環境を作るため実践し展開して行きたいと考えている。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業運営の基本的共通認識として事務所や厨房等見やすい場所に掲示して、職員が常に意識して業務に携わっている。またユニット会議や朝の引継ぎミーティング等でも理念について確認しあい日々の実践に心がけている。	○	継続して取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	施設に訪問された時、地域の方やボランティア、家族の方々がいつでも見れるように玄関先に掲示している。	○	訪問時に施設案内と同時に理念の説明もして、取り組みや経営理念を理解してもらえるよう取り組んで行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩や職員の通勤時の声掛けなどをしながら地域との一体感を持てるように、施設側からお付き合いのきっかけ作りをしている。また、施設の行事にも出来るだけ参加してもらえるように声掛けをし参加もして頂いている。	○	これまで同様実施していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏の盆踊りへの参加や運動会見学、防災訓練、ドンド焼きなど地域の行事に積極的に参加して交流を進めている。又近所の保育園との交流も定期的実施し相互に良い関係作りを進めている。	○	今後も地域活動に積極的に参加し交流を進めて行きたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	盆踊り行事に参加する事は勿論、盆踊りの舞台作りの飾り付けや飾り物作りなどを手伝いなど準備段階から参加して一体感を作って行く事している。昨年地域から提案があり、本年は是非実施していきたいと考えている。	○	ご近所の住民との会話や運営推進会議の中でも地域の情報を得て参加できる機会を作って行きたい。
---	--	---	---	---

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を理解し、ホームでの暮らしがより良い物に作り上げるべく資料を配り周知している。第三者評価を受けるに際し、この目的やねらいを文書で配布し、また職員にも評価して提出してもらった。	○	結果を職員に提示し改善項目や取り組むべき項目を全員で認識して実行して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	既に3回の会議を実施し、取り組み状況や運営状況の説明や改善に向けた話し合いを進めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所のサービス課へご利用者とともに訪問し、話し合う機会を持ち情報交換する機会にしている。市担当とは事業運営上の質問をファックスで確認するなど接触の機会を作るようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	その必要性は認識しており、活用できるように制度と進め方について今後も良く学び必要時に適切な対応ができるように準備しておきたい。	○	現在生活保護受給者は2名生活しており、成年後見人制度について区担当者とも話し合い適切に進めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしないさせないを合言葉に、理念の中の「愛のあるやさしい心」をもってご利用者の介護に携わるように指導徹底している。また、職員の定例会議やカンファレンス時にも虐待防止について話、資料も配布して注意喚起している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際し、契約書及び重要事項説明書を下に施設側から内容を読み上げ説明している。又料金表や外部評価結果も手渡し説明して不安・疑問が無いようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当者を設け、ご利用者の関係をより緊密にして要望を聞き、カンファレンスの中でケアプランの中に反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にお便りをご家族宛に郵送して暮らしぶりをお伝えしている。又健康状態については訪問時に生活の様子をお伝えし、特に健康上の問題発生時は電話で報告するようにしている。お小遣い関係は、訪問された際に使用状況を管理ノートで説明し必要とされる領収書もお渡ししている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置し、意見や不満、苦情を聞く機会にしている。	○	家族会は定期的に開催してない為、早急に家族会のルールを作り定期的に開始をして運営等に関する意見を反映できるようにしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、ユニット会議を開催し職員の意見や要望を聞き、また施設管理上の変更などについてもこの会議で説明して理解を得る様にしている。普段の業務中も意見等についてもはユニット長、ホーム長に上げられ、代表者及び管理者はそれに対応するようにしている。	○	今後も意見要望を聞き、運営が円滑に進められるようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	連絡網を整備し、状況変化に対応できる体制をしいている。ユニット会議などでカンファレンスを実施して入居者の変化に対する関わり方を話し合う機会にしている。行事实施に際しても大きなイベントは非番の職員にも出勤してもらい必要な人員確保をし有事に備えた対応をている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の離職により2回やむなく移動の事態が発生したが、人員基準は遵守している。職員の意見や希望を聞く機会として職員が全員参加対象の会議も開催し、定着率低下予防を図っている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部のホームヘルパー養成学校の先生を直に依頼し、勤務中の介護技術指導や研修を積極的に実施しレベルアップを図っている。	○	職員の技能や知識、経験に応じた内容の研修を実施すべく、計画段階から内容を十分検討し研修を更に推進し職員の向上心に繋げて行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はグループホーム交換研修に3名の職員が参加し学びと気づきから、自施設への運営の改善に繋げている。またグループホーム連絡会等に積極的に参加したり他事業所の見学などで相互に情報交換をして交流を進めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩み事や相談事は溜め込まず、早めには先輩やリーダーに話すよう指導している。又休憩室にマッサージやリクライニングできる器具を設置し、心身の疲れも癒せる工夫をしている。	○	個人攻撃や中傷など無く常に希望や悩みを話せる風通しの良い職場環境を作って行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年度末に職員の勤怠評価をし、雇用条件に反映して業務への意欲や向上心に繋げている。又、研修会など実施したり講習会参加でスキルアップへの援助をしている。	○	適正・公正・公平な評価基準を作成し、努力が報われる処遇を進めて行きたい。

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居室担当者を設け、特に担当のご利用者との良い関係作りをしながら出来るだけ早期にホームの生活に慣れていただくようにしている。居室担当者とおきるだけ相談や不安な点を話し合える環境作りを進めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望に当り、随時見学の受け入れや利用、宿泊体験なども取り入れ、おきるだけ不安な点を解消して入居してもらう工夫をしている。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から現在の生活上の悩みや相談事を聞き取り、グループホームの生活が適切か本人の希望や将来の計画はどうかなどを確認しながらサービス提供の必要性を検討している。状況により入所施設や、在宅介護などの助言もしている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当り、本人の望みやホームでの生活スタイルなどを確認し、不安な点を解消して入居してもらうことを前提に、状況により自宅の外泊やご家族との外出、或いは職員と趣味を通した過ごし方をしてもらうように工夫をしている。食事やレクリエーションなどのお席もその人の性格や趣味を出きるだけ配慮して皆で楽しめる雰囲気作りに配慮している。友人知人の訪問や面会も自由に受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の流れの中で、ご利用者の趣味の囲碁、歌やダンスを歌ったり踊ったり教わったり、昔話を聞いて職員も学ぶ事が多い。レクリエーションを楽しんだり、公園への散歩、近くの障害者喫茶店でのコーヒーを楽しむ等工夫をしている。また、居室の掃除や庭の草取り、食事の配膳など一緒に生活をする環境作りに努めている。	○	より信頼関係を築き安心した暮らしをして貰えるように工夫改善して行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がホームの行事に参加してもらうようにお誘いし、職員も家族もご利用者もみんな一緒に楽しんでもらえる環境を作っている。毎年芋煮会パーティーでさつま芋の収穫を楽しんでいる。時に心身状態が不安定になり、帰宅願望が強い時などは職員とご家族が協力し合い一緒に支えあっている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との良い関係作りと暮らしの様子を知ってもらう為、また面会になかなか来れない家族のためにも毎月写真中心のお便りを郵送している。また、面会時には普段の生活の様子などもお話しして理解を深めてもらうようにしている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設訪問時間は誰であっても特に制限をせず、友人や知人、親類はいつでも自由に面会をして貰っている。一時帰宅や外食外出なども家族に勧めて一緒に過ごす時間を作ってもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相互に気の合う仲間との外出を企画したり、散歩などでは手をつないで支えあってもらう工夫をしている。また、リビングで過ごす時間は皆でソファーに座り、お茶を飲みながら好きな番組を見て、一緒に笑ったり悲しんだり話したりできる雰囲気づくりに心がけている。	○	趣味や気心が合う方を把握し、生活が楽しく穏かに過ごせる機会を作るようにしていきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後のトレースはしていない。今後ご家族との関係継続を進めて行きたい。退居されても相談があれば丁寧に対応して行きたい。今年は退居されたご家族からの年賀状も有った。	○	退居されても毎月のお便りを送り、出会いを大切にしてお付き合いをしていきたい。

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	穏かな生活をしてもらう為カンファレンスなどで問題点や適切な支援方法を見出し対策を取っている。本人の意向に沿って買物外出や食事などを実施している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント及び本人や家族との話しからその人らしい生活を見出し支援するように心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	居室担当を決め、担当のご利用者の心やADLの変化、洋服、下着類や居室の観察をしながら、状況の変化に適切な関わり方ができるようにしている。また、引継ぎのミーティングや定例会議の中でカンファレンスしてケアプランに反映させている。		

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ユニット会議の中でカンファレンスを実施して適切な支援計画を作成する努力をしている。作成に際し、訪問された時にご利用者の生活への希望や支援の有り方など聞き反映するようにし、作成後もご家族に内容を説明し意見要望を聞くようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	適時カンファレンスを実施し、適切な介護計画づくりに心がけている。	○	もっと家族と話し合い、その結果をケアプランに反映して行きたい。そしてケアプランの実行に家族も参加する内容にして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を業務日誌に記録するとともに、引継ぎミーティングで相互確認をしてケアプランを作っている。また変更が必要となれば内容や進め方を見直しをするようにしている。往診ノートやスタッフ連絡ノート、活動日誌等に記入し、内容を共通認識して関わり方も統一してご利用者の混乱が生じないようにしている。	○	今後も継続して実施して行き改善点があれば改善してより良いケアプラン作りを進めて行きたい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族のご希望に合わせて、外出や外泊など自由に実施して貰っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会に地域代表として民生委員に参加して頂き地域一体化に向けた活動や、定期的消防訓練を実施して消防署からの指導もして貰っている。また近所の方にハーモニカ演奏や盆踊りリハ体操などボランティアで訪問してもらい一体となる交流を心がけている。	○	地域包括支援センターとの連携を強く進めて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅支援事業所やケアプラザとも連携し、入居状況や空き室状況などの連携を取っている。	○	継続して実施して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまでは特に希望や相談は無かったが、運営推進会委員に地域包括支援センター所長の参加を頂いており、タイムリーな情報交換をしている。	○	地域包括支援センターとの情報交換や交流を進めて行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の鶴ヶ峰病院とは協力提携病院として入居者の病気診断や健康診断で連携している。又、二回/週の往診医との契約で休日・夜間を問わず異常時の先生の指示を仰ぎ適切な対応をしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳神経外科の小安医院や新緑会脳神経外科と提携して、診察診断を受けられるように環境を整えている。		
	○看護職との協働			



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	二回/週の訪問看護師により定期的に医療面の健康観察及び健康管理をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は適宜面会をして入院中の容態を確認している。又ご家族との連絡を取り合って退院までの経過確認を実施している。	○	入院した場合は入院先の病院と連携を密にし、情報をよく交換して退院後の対応が円滑に進めることができるようにしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では当ホームでターミナルケアの設備的援助的能力がなく、重度化して自立的な生活が望めなくなってきた場合は、ご家族や往診医とも相談しあい、今後の方針を共有化して一緒に進めている。	○	施設として重度化後の対応は何処まで可能か検討して行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	自立支援を基本に本人の意向も十分勘案する支援に心がけている。寝たきりになる恐れや近々に自立した生活が期待できないご利用者に対して、往診医の先生とも相談し特養や老健などの入所施設の申し込みの勧め一緒に施設見学に同行して支援している。	○	重度化した場合に備え職員研修や設備の充実など検討して行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所施設をご家族と一緒に訪問したり、入院中の病院とコンタクトを取る等して今後の方針を家族とともに話し合っている。これまでは医療関係の入院で退居されたケースが多かったが今後も十分な話し合いをしながら適切に支援して行きたい。	○	継続して実施していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者を心から敬う言葉使いを指導している。又記録書類については事務所のロッカーに保管して外部から見ることが出来ないようにしている。	○	継続して実施して行く。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が希望する事をできるだけ叶えてあげられるように、時間的な配慮や、嗜好品などについて話し合っただけ支援している。	○	継続して実施して行く。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中にも、個別援助を基本にご利用者の状況に応じた生活をして貰えるように配慮している。食事の時間や睡眠、夜間の入居時間など。	○	継続して実施して行く。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出にもお誘いし着用する洋服を一緒に選んでおしゃれな装いで出かけたり、お化粧品をお手伝いしたり支援している。また理美容については近所に馴染みのお店がない為ボランティアの美容師を依頼してホームでカットをして貰っている。	○	継続して実施して行く。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備にモヤシのヒゲを取って貰ったり、大根おろしを手伝って貰うなど、また配膳や片付けなども出来る方には一緒に実施してもらう工夫をしている。	○	継続して実施して行く。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲物などは好みのものを個別購入したり、煙草は散歩を兼ねた外出でタバコ屋さんで買物し本人の希望時に喫煙して貰っている。安全管理上の問題が無い範囲で個人個人の状況に出きるだけ合わせた支援をしている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレへのお誘いや夜間のトイレ声掛けなどして自立排尿を促している。また、排泄チェック表		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に二回/週の入浴を決め、ご利用者の健康状況や希望に応じて入浴を楽しんでもらっている。また、入浴時以外も可能な時はご利用者の希望があれば入浴して頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日の生活スケジュールを固定化せず一人ひとりの健康状況や趣味を考えて暮らして貰うように心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木の手入れや趣味の編み物、新聞受けからの取り出しなどできるだけ役割を考え行動してもらう工夫をしている。	○	趣味の囲碁やダンスなどボランティアの協力を求め、一緒に過ごしていただける様な活動を進めて行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に事務所で保管して必要時に渡している。自販機でのジュースや買物外出時の支払いなど可能な方には自分で買物を楽しんでもらう工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出きるだけ近くの公園散歩や買物に行き施設外の空気を感じて貰うようにしている。また、施設のベランダや庭に出て戸外で気分転換をしても貰う工夫もしている。	○	今後も外出希望などご本人が望む事を叶えられるように支援をして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員の配置上無理がないように考えて、外出を企画実行している。スーパーやファミリーレストラン、喫茶店などにもお連れする機会を作っている。	○	今後も継続して実施して行きたい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎやお手紙やはがきの投函のお手伝いをしている。。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも受け入れており、尋ねてこれたらお茶などを出して訪問お時間を相互に楽しんでもらっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法の基準における行為そのものの内容を言葉上説明或いは指導はしていないが、身体拘束は安全上やむを得ない事態以外はしないように徹底指導しており、これまでのその事実は無い。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設内は基本的にフリーの考えであり、施錠管理はしないようにしている。現在は外の門扉の施錠や勝手口の施錠を実施している。但し夜間は安全管理上玄関の施錠は実施している。二階の行動障害者対策として、玄関に鈴を取りつけ異常を早期察知できる工夫もしている。	○	継続して実施して行く。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動観察に注力して安全確保をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や洗剤等は別の場所に保管管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	煙草や火の元は事務所の管理とし利用者が発生源にならないようにしている。又防災避難訓練にも参加してもらい意識付けとしている。転倒防止の対策は特に夜間の居室では難しい面が有るが、夜間居室の見回りをして行動観察から事故防止につなげている。しかし、転倒事故も発生しているのも実態であり、設備的に対応策を検討していかなければなら		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応の講習会に2名参加して知識と技術を身につけている	○	職員全員を対象に救急訓練を企画実施して行く。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ご近所への日頃の挨拶や回覧板を回すとき等適時話す機会を持ち有事の際の協力を呼びかけ依頼している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族が訪問された時などの機会に状況を説明し、往診医などとの調整やアドバイスを伝え対応策を決め必要事項を実施している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	24時間ご利用者毎に生活活動日誌に記録し、勤務の引継ぎなどで確認しあい情報の共有化に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬の一覧表を薬局に作成して貰って、与薬している薬の作用や副作用などを職員に渡し理解をして貰っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や食事にも気を配り、特に牛乳摂取や腹部のマッサージをするなど便秘防止に心がけている。朝の体操も一緒にを行い身体を動かす働きかけをしている。	○	今後も継続して実施して行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアを実施している。	○	今後も継続して実施して行きたい。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは食材納品を依頼している会社から配布され、お年寄りのカロリーバランスを考えた献立にして貰っている。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修にも参加し往診医の先生とも連携をとり、除菌殺菌に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は提携の会社から取り寄せ、新鮮で安全な食材の納品を求めている。又、直接食材納品会社に見学に行き現場の実態を査察して衛生管理等を確認してきた。また、食器関係は手洗い後食器乾燥機にかけ熱消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の門扉は出きるだけ低い物で隔離的イメージがないように、又玄関先の畑に野菜や花などを植え明るくした親しみやすい環境作り心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節感が感じられるような飾りや絵を職員手作りの作品を飾っている。又、ご利用者と一緒に絵や装飾を作って皆で楽しむ工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き皆でテレビや談笑できる配慮をしている。買物でお菓子類など希望有れば一緒に行って買い友達にも食べて貰う様に手助けをしている。	○	
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は出きるだけご利用者のなじみの家具などを持ってきてもらっている。また、刃物などの危険物は置かないようにしている。	○	ご自分の部屋が落ち着く環境作りを進めていきたい。
	○換気・空調の配慮	居室の連通時に窓を開け換気したり、各居室に温度計を、		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室の清掃時に窓を開け換気をしたり、各居室に温度計を設置し温度管理をしている。リモコンは職員で預かり、木目細かい温度管理に心がけている。又居室には24時間自動運転の空気清浄機も設置して住みよい環境作りをしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な箇所には手すりを取りつけ、歩行困難なご利用者の転倒防止を図っている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>自立支援に心がけ、役割を持って生活をして貰うようにしている。行動の不安や失敗には職員がさりげなく寄り添い、声掛けをしながら適切に誘導をしている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>周囲に出きるだけ野菜が出来るスペースを設け、季節季節の野菜や草花を育て収穫の喜びや愛でる花を皆で感じる工夫をしている。</p>	○	<p>自然環境の立地を活かして、畑や庭に植物を育て心が安らげる空間作りを更に進めて行きたい。</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの理念を基本に業務を進めていくように指導しており、ご利用者だけに理念を考える事ではなく、職員同士も理念をもってお互いに接するよう指導している。ご利用者も職員も同じ場所で同じ時間を共有しており、ともに素敵な時間を過ごそうと考えている。また、日々の生活では出きるだけ外出して外の空気を感じてもらいたいと考え近所の喫茶店や公園、駅近くのビルなどに行ってお買い物なども実施している。施設の周囲は多くの緑や花を育て、その中から季節感を感じて貰っている。又イベントも多く企画して毎日が楽しくメリハリのある生活の提供に努力している。